

おやじの会による小・中学校連携と地域 PTA 活動

下松中学校 PTA と下松(下松小・下松中)おやじの会

PTA会長 諏訪一郎
学 校 長 宮内茂則
おやじの会代表 諏訪一郎
生徒 数 404 名
会 員 数 365名 (家庭数 名 教職員数28名)
所 在 地 〒744-0005 山口県下松市古川町2丁目1番1号
TEL:0833-41-0761 FAX:0833-44-3326

1. 学校地域の概要

山口県下松市は瀬戸内海に面した温暖な気候に恵まれた街であり、人口は 56,281 人（平成 24 年 12 月現在）である。主な産業は工業で、新幹線を製造している日立製作所笠戸事業所や東洋鋼鋳下松工場が有名である。最近では郊外型の大型店舗が次々と作られている。下松はかつて青柳浦と呼ばれていた。推古天皇（女帝）の時代、3 年（595 年）9 月 18 日、青柳浦の老松に大きな星が降りかかり七日七夜の間、目もくらむばかりに光り輝いた。その時、占いをする人に神かがりして「われは北辰（ほくしん）の精である。今より 3 年の後、異国の太子が来朝される。その守護の為、ここに天降ったのである。」とのお告げがあった。北辰の精が松の木に降ったというので、それまでの青柳浦を「降松」と改めその後、今の「下松」と書くようになったといわれている。そのような所以の深い「かなえの松」が存在する金輪神社からほど近い、下松駅北口に下松中学校は存在する。「自らなせ 協力せよ 気迫をもて」の校訓のもとに、スポーツと学業の両立を目指している。とりわけ伝統的にハンドボールの活躍は大きく、国内でも有数の有力な選手を輩出してきた。また、近年では吹奏楽部の活躍もみられる。

1947（昭和 22）下松小学校地内校舎内で、下松市立第一中学校が開校

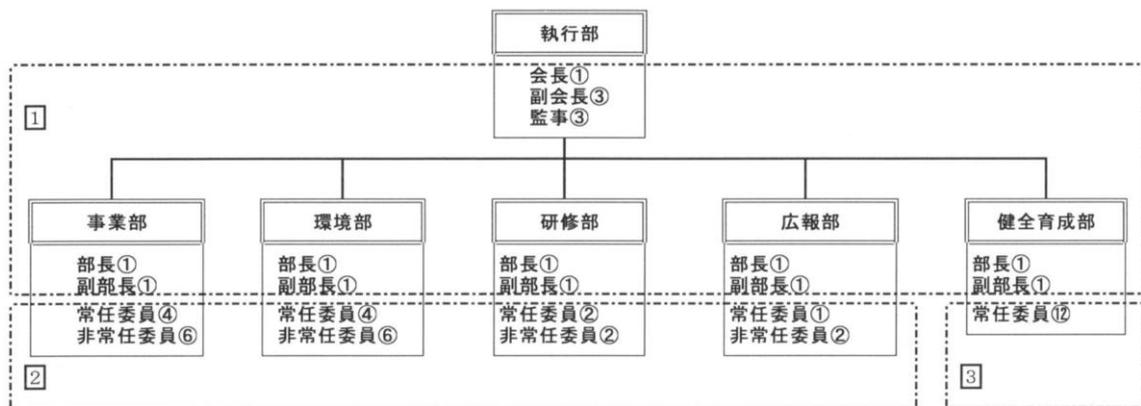
1949（昭和 24）校歌制定

1950（昭和 25）校章旗制作

- 1953（昭和 28） 現在地に校地設定 新校舎第一期工事完了
- 1954（昭和 29） 鉄筋 2 階建普通教室 12 室 木造 2 階建 15 室
- 1979（昭和 54） ハンドボール部男子全国大会優勝
- 1991（平成 3） ハンドボール部女子全国大会第 3 位
- 1992（平成 4） ハンドボール部男子全国大会第 3 位
- 2002（平成 14） 新校舎（生徒棟）完成
- 2005（平成 17） 全日本吹奏楽コンクール山口県大会金賞受賞（県教育長賞）

2. 下松中学校 P T A とおやじの会

P T A は保護者と教員が学びあうことで、その成果を生徒に還元することを本旨とする。学習成果の還元場所は、家庭、学校、地域である。同時に、民主的な方法で P T A を運営するという設計思想があり、P T A は民主主義の演習の場であるという側面を併せ持つ。おやじの会は、有志の父親を中心に、P T A 活動の側面支援と父親同士の交流、親子の絆作りを目的と掲げ結成され本年で 6 年目を迎えている

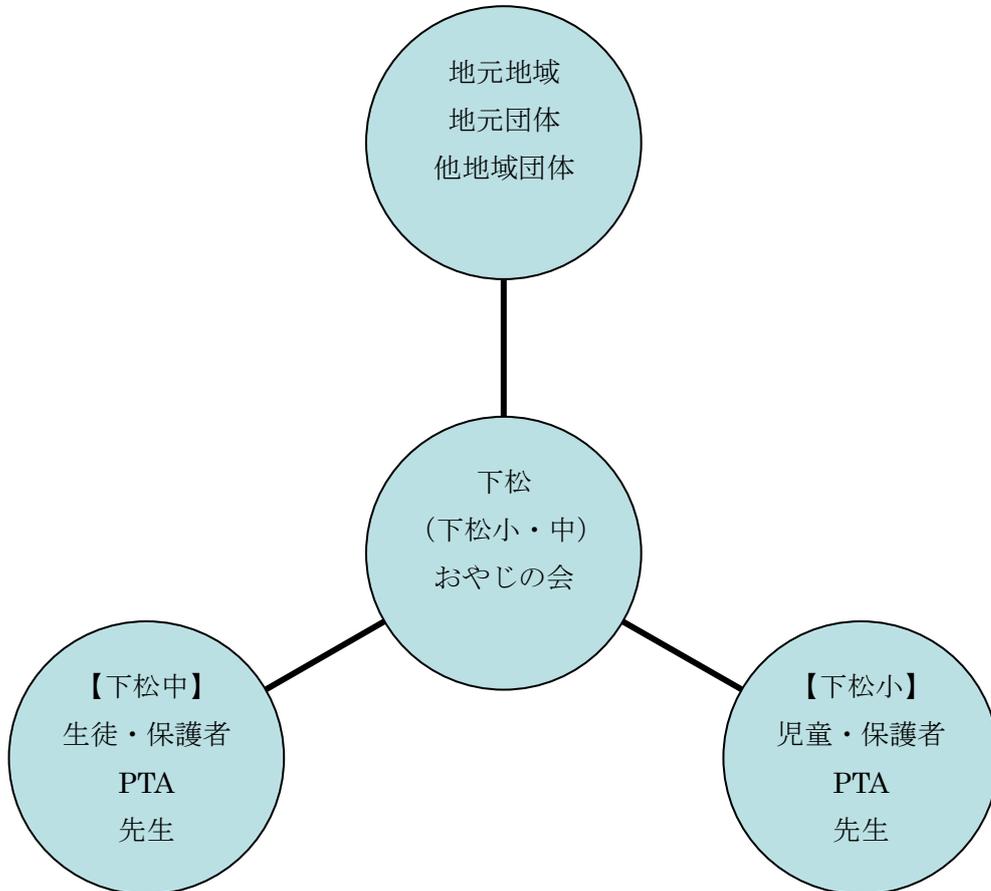


3. 下松おやじの会とは何か？

「下松おやじの会」は、2007年8月、笠戸島マリニイカダレースに参加した下松小の父親有志らにより、「下松小おやじの会」として結成された。2011年4月、下松中学校の父親（下松小学校を卒業した生徒の父親）達もおやじの会を作ることになったが、小学校と中学校のおやじの会の活動を合同ではどうかという意見により「下松（下松小・下松中）おやじの会」となった。この会に引退はなく、現在三十名強である。年齢、職業はまちまちで、下松小、中学校の生徒の父親が主であるが、下松中校区の笠戸地区、豊井地区にも会員がいる。参加資格は限定しておらず、老若男女問わず誰でも参加でき、女性会員もいる。会員として特段の義務はなく、行事についても自由参加で、参加の義務はない。

子どもが参加している時だけの参加も可能で、年1回だけの参加でもOKである。

下松おやじの会と地域・下松小・下松中の関係



4. 研究主題について

「おやじの会による小・中学校連携と地域PTA活動」

下松おやじの会は、子どもを取り巻く環境が、核家族化や少子化と進み、子どもの躰や学校・地域との連携が希薄になっている昨今、父親の家庭教育への積極的な参加や、学校・地域との連携などの役割を見直す必要があり、さらには、親子の絆を強くすることなどを趣旨として結成された。おやじの会の行事は、様々なイベントを中心とし、小学生から中学生、保護者まで、一緒になって体験し、学んでいる。その中で、各児童生徒が親の手を借りずに自分の力でやってみるにより、生きる力を養うことができ、また小学生と中学生が、手助けや、譲り譲られる気持ちを持つことで、助け合う心、思いやりの心が育つ。1年間を通じて「下松おやじの会」の活動内容を振り返り「おやじの会による小・中学校連携」の成果と課題から、地域PTA活動の発展に寄与する点を考察したい。



5. 2013年の活動内容

■毎月初め おやじの会例会：一月に一回、おやじの会例会を行っている。会を開始してから66回目（2014年2月4日現在）を数え、おやじの会会員は勿論、OB、小・中学校の教頭先生、校長先生、他地域団体の代表者や他おやじの会のオブザーバーを集めて定例イベントやPTAや学校の支援について話し合っている。会場は下松小学校と下松中学校を交互に使用することが多いが、時折公民館も活用してリラックスしながら今後の展望を語り合っている。

■毎月1日、22日（ニコニコあいさつの日）立哨（挨拶運動）

毎月1日、22日はおやじの会の挨拶運動の日と決め、朝7時から8時までの間に、会員の許せる時間の範囲内で行っている。下松小学校と下松中学校の校門前を中心に、裏門や学校近傍の交差点、交通の危険性の高い路地などに立つ。各学校の生徒や児童の考えた挨拶の標語の幟を手に掲げ、生徒以外にも保護者、一般歩行者、自転車、バイク等にも積極的に声掛けをしている。おやじの会の会員が自分の子ども以外のたくさんの地域の子達と触れ合う機会があるのが、この活動である。 マンネリ化を避けるための試みとして山口県ゆるキャラ「ちよるる」の着ぐるみを纏った際は大好評であった。子供たちが進んで挨拶していく啓蒙運動を目指して工夫していきたい。



(二) 下松おやじの会の活動

おやじの会は父親たちが交流を深め、子どもたちの成長を地域で支援していこうという趣旨で設立されたものである。毎月一日には校門付近でお父さんたちのあいさつ運動が行なわれる。緑のチョッキに下松おやじの会のマークが入ったお揃いの姿である。慣れ親しんだお父さん方に子どもたちは口々に「おはようございます。」の元気なあいさつをする。おやじの会のメンバーは、どの子どももみんな自分の子どもという思いで活動しておられる。

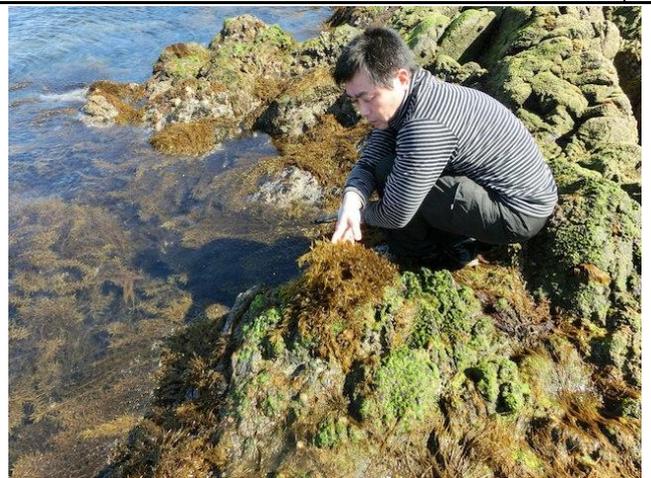


■1月20日 下松駅伝大会、校長先生追い出しソフトボール大会

昨年度で退職された下松小学校の弘田靖校長先生は、頻回におやじの会への出席していただき、各イベントへの参加、マスコットキャラクターの「ひらめ提灯」の開発等で、会へ多大な貢献をしていただいた。弘田先生は自ら手弁当で高校野球の公式審判を務められ、自らもプレーヤーとして活躍されていた経歴をもつ大の野球ファンであったので、子供達との野球大会を餞に送り出すことを企画した。下松小学校のスポーツ少年団チームと弘田先生を擁する先生&おやじチームで対抗戦を繰り広げ、思い出に残る送別会ができた。



■ 2月24日（日曜日） おやじの遠足：おやじの会の会員同士の親睦のため、他地域おやじの会との交流のため、おやじによる おやじの為の おやじだけの遠足である。いつもは子供達がしている遠足をおやじだけで楽しむ企画である。路線バスで笠戸島深浦に赴き、地元の方の協力で漁船に乗って未開の浜に上陸し、ワカメ・ひじきを採取した後、公民館に帰って深浦地区の方との交流会。非常に好評で、次年度も下松おやじの会をはじめ、久保小おやじの会、島田小おやじの会の方を招き開催することになっている。



■4月14日（日曜日） おやじの大花見懇親会

新年度に際し、下松おやじの会に入会した新会員、小・中学に新たに赴任してきた先生と既存会員の懇親を図るため花見を兼ねて行っている。去年は生憎の雨の中、橋の下で雨を避けながら行った。



■6月30日（日曜日）親子で武道体験（なぎなた）【下松小学校 体育館】

武道は、長い歴史の中で培われ、発展してきた伝統文化である。武道は、心技一如の教えに則り、礼儀正しさを身につけ、技を磨き、心身を鍛え、立派な人になる為の修行方法である。現代の小中学生は、ゲームや携帯などバーチャルな個人遊びや日常が多く、自分の体を使って「体験」する機会が少なくなっている。その中、日本人の体力低下、精神の弱体化、テレビの暴力的な映像を多く目にする。自分の痛みを知ることで人の痛みを知る。強さを求めて、礼節と優しさを得る。非力で気の弱い者が、稽古を通してがんばり、勇気と自信を得て逞しく強くなる。そんな武道の世界を親子で体験するため

に「親子で武道体験」を毎年企画・運営している。2012年は下松市江の浦なぎなたスポーツ少年団の方にご協力いただき開催した。



■8月3日（土曜日）くだまつ夏祭り（中学生とチョコバナナ販売）

くだまつ夏祭りにて下松おやじの会はチョコバナナ店を出店。おやじの会、下松中生徒で販売した。中学生は総計十人弱のボランティアチームでチョコバナナを売った。女子生徒はお祭りの喧噪の中からキャッチセールスのようにターゲットを誘導し、男子生徒は真面目に声を張り上げて売り切っていた。およそ4時間で560本売り上げた。この収益により、おやじの会の活動で生徒たちに提供するサービスが可能となる。ボランティア終了の時間20時30分になったので「今日はありがとう。助か

ったわ。もうお自由にしてよ」と言ったら、「まだ、少しチョコバナナ残ってるじゃないですか。完全に無くなるまで売らしてください」との返事。何事にも積極的な下松中学校の姿勢を確認した。



■8月25日（日曜日）笠戸島マリンイカダレース

笠戸島イカダまつりは下松の夏を代表するイベントであり、おやじの会創生期より、毎年参加している会の恒例行事である。笠戸島はなぐり浜と大城岬の間3kmのコースを、手作りのイカダでレースする。イカダレースのほかにも、アピールタイム、ビーチフラッグ大会、ビーサン跳ばし選手権、大綱引き大会など、様々な催しがある。会では毎年6月頃から作成

準備を始め、デザインは下松中美術部の有志に依頼している。レースにおける参加資格は12才以上(小学生不可)であることから、3年前、初めて下松中の中学生にイカダまつりへの参加を呼びかけ、女子中学生2名もイカダの漕ぎ手として参加した。2012年、デザイン部門は60艇強の中から8位入賞を果たし、アピール部門では優勝し下松おやじの会の認知度を向上させた。昨年2013年は「下松おやじの会」が全面サポートしたレース史上初中生が乗船するチームを結成したが、荒天のためレースが中止となり幻の大会となった。

2012年 「下松おやじの会」レースへの参加風景



2012年アピール部門 優勝 「地元戦隊五輪ジャー」



2013年下松おやじの会有志によるイカダ作成（3艇作成した）



2013年 「日刊 新周南」

初の中学生チームとして取材を受けた。



張り切る「まだ中学生」チームの下松中生と諏訪会長(右奥)

● 下松 ● 52艇が真夏の海へ 25日・笠戸島イカダまつり 初の中学生チームも

下松市の夏の大イベント、第二十四回笠戸島イカダまつり・マリナイカダレース大会(新周南新聞社など後援)が二十五日午前九時半からはなく、海水浴場で開かれ、五十二艇(計三百四十人)が県内外から出場する。初出場は十一艇で、初めは中学生だけのチームもエントリーする。

この大会は手づくりのイカダで浜から大城岬近海まで往復し、五時をこぐもので、市制五十周年を記念して一九八九年(日元)に始まった。タイム部門とイカダのデザイン部門、パフォーマンス部門、パフォーマンス部門がある。

実行委員長は主管の下松商工会議所青年部(八十四人)の田村浩昭会長(35)、運営委員長は依積田亮イカダまつり委員長(35)、青年部会長、市職員、笠戸島自治会連合会役員など百四十五人が運営する。出場は企業や事業所から多

く、中国電力グループ五艇、山口合同ガス徳山支店、下松おやじの会各三艇、下松市役所、東洋鋼管、中国ビジネスサービ

ス、U.A.センセン、松村医院、アステム、東洋紡岩国事業所各二艇。学生チームは下松工高定時制、桜ヶ丘高、宇部工高、小野田工高定時制、下松中。個人参加は昨年より三艇増えて六艇。

レディースチームは四人、田村浩昭会長(35)、運営委員長は依積田亮イカダまつり委員長(35)、青年部会長、市職員、笠戸島自治会連合会役員など百四十五人が運営する。出場は企業や事業所から多

く、中国電力グループ五艇、山口合同ガス徳山支店、下松おやじの会各三艇、下松市役所、東洋鋼管、中国ビジネスサービ

「かけ声をかけあつて気持ち一つにしてこぎたい」と意欲を見せ、広石倫奈さん、林香保さん、山本凌太郎君、金清祐紀君、谷口健一郎君、同乗する同校の怒和勝宏教諭(42)との息もびつたり。諏訪会長も「完走を第一に頑張つてほしい」と期待している。

開会式のと九時五十分からビーチフラッグ大会、十時二十分からビーチチンタールを蹴り飛ばし距離を競うビーチサン跳

はし選手権がある。十時五十分からイカダのピルタイムで、午後零時半にレースがスタートする。レース後は参加自由の大綱引き大会もある。

駐車場は県道沿いに九カ所あり、会場と無料バスで結ぶ。かき氷やジュースなどの店も出る。荒天時は中止。問い合わせは前日までは下松商議所(0833・41・1070)、当日は大会本部

決めた。同会は大人の二チームを出す、このうち一艇と中学生チームのイカダは下松総合文化部絵画コースの生徒がデザインして描き、中学生のものには下松公園の星の塔と下松中の校章が描かれている。

諏訪晴香主持(13)は「かけ声をかけあつて気持ち一つにしてこぎたい」と意欲を見せ、広石倫奈さん、林香保さん、山本凌太郎君、金清祐紀君、谷口健一郎君、同乗する同校の怒和勝宏教諭(42)との息もびつたり。諏訪会長も「完走を第一に頑張つてほしい」と期待している。

開会式のと九時五十分からビーチフラッグ大会、十時二十分からビーチチンタールを蹴り飛ばし距離を競うビーチサン跳

はし選手権がある。十時五十分からイカダのピルタイムで、午後零時半にレースがスタートする。レース後は参加自由の大綱引き大会もある。

- (080・2931・9561)へ。出場チーム次の通り。(カッコ内は団体名、個人名は個人参加チーム敬称略)
- 〔下松市〕TK WO RKS、フオルテ(東洋鋼管)アステム会戦団A、B(アステム、いいことプラスエネルギー、エネルギーAおやじ号、エネルギーB(中国電力下松発電所)HIKラフティンク部(日立交通テクノロジー)山枝(山陽技術工業)おやじ帝國、おやじ番長(下松おやじの会)Y4レンジャー(山下駿)みんなのあしたにハッピーを(コカ・コーラウエスト)岸信夫と青年部、岸信夫下松事務所、DAIHATSU下松(下松車輛販売)中国ビジネスサービス周南、ゼロ災丸II(兵庫ポルト)Y Pふくふく丸(下松警察署)新笠戸ドック、ひらめフィッシュヤード(市役所)Weneed たのしい(マルハン下松店)下工弁慶号Ⅷ(下松工高定時制)YBK48(山口銀行下松支店)米川ウルトラ8兄弟(原田育夫)マレディイ(山支店)
- 〔周南市〕JAベノミクス☆周南号(JA周南)Team K(吉川大介)チーム誠(土江組)ドラマチックJC2013(周南JC)青ひげ海賊団(東ソー)タニマツ号2013、今年もたんぶく丸(山口合同ガス徳山支店)セラウイ徳山マリンクラブ(セラウイ徳山)メタボX、メタボ予備軍(松村医院)桜ヶ丘高電気科&商業科、センセンヤングリース(U.A.センセン)マレディイ(下松工高定時制)スル(市役所)マレディイ(U.A.センセン)微笑の塔(山口合同ガス徳山支店)
- 〔光市〕それゆけぐたぐた海賊団(矢野健太郎)↑ワロタw 井村亮太郎 TEAM零(岩坂智之)
- 〔その他〕CPCI、II(柳井市・中電ブランド労組)TOYOBOSY(東洋紡岩国事業所)山EBOYS(宇部工高)小工THEブリン(小野田工高定時制)OREE部(山口市・中村真二)江津YEG2013(島根県・江津商議所青年部)

作成後、バランス確認のため下松小学校のプールを借り試乗



昨年、2013年の笠戸島マリンいかだレースは、残念ながら荒天のため中止となった。中学生の渾身のイカダデザインが評価される場を失ったため、下中学園祭にて二日間展示された。



■9月8日（日曜日）下松中 ・9月22日（日曜日）下松小 運動会アシスト（警備担当）

下松小・中学校の、運動会の警備に備えて揃いのおやじTシャツをドライ素材で作成した。



中学校の前の警備風景（小学校と中学校のおやじが交代で警備）



■10月19・20日（土・日曜日）中央公民館祭り（チョコバナナ販売）

「下松おやじの会」の運営費用は、お祭りでのチョコバナナ販売による模擬店の収益などで賄っています。そのため、傷害保険等の費用も含め、会員の費用負担はありません。ただし、行事の後での宴会（飲み会）などについては、会員の自己負担になります。



■ 11月10日（日曜日） 深浦デイキャンプ

下松おやじの会主宰で「デイキャンプ in 深浦」を毎年開催している。2012年から下松中学校、笠戸・江の浦・豊井小学校、下松小学校に参加を呼び掛けている。地元の普段いかないところを学ぶため、ウォークラリーを行っているが、この時は生憎の荒天で芋ほり・ウォークラリーはなし、室内でしめ縄造りと魚を捌く調理体験、餅つき体験をした。主催者側も、全てがはじめての体験だったが遠足とは少し違う体験ができたのではないかと思う。深浦の方々、おやじの会の方々、下松小学校の先生方、お母さん方、サポートしていただいた全ての人に感謝している。



中学生には小学生を取りまとめるリーダー役をお願いしている。



取れたての小鯨や地元の野菜を使った調理体験



■ 12月23日（日曜日）しめ縄作り

下松小学校の体育館でしめ縄作りを行いました。今回も、講師は笠戸島深浦地区の方をお願いして、午前中の時間一杯使って子供達と熱心に取り組みました。数年前から続いてすると、みんな上達したね。



6. 成果と課題

下松おやじの会の活動を通じて、下松中学校区の中学校と小学校の交流が活性化した。父親は勿論、先生、生徒の人材交流をはじめ、モノとコトの交流が増加した。しかし、会員の獲得が厳しく、積極的な父親の参加が課題である。

7. 結語

下松おやじの会のように小学校と中学校のおやじの会が同一の活動をすることにより、児童・生徒・先生の交流、小学校と中学校の連携が密になる。PTA活動を強化し、小中連携の為には極めて有効であると思量する。おやじの会に限らず、母親委員会や一般のPTA活動を小中合同で実施することも同様の結果をもたらすと考える。